



防護設備もなく五人の作業員が被ばく!

六月六日、日本原子力
研究開発機構（原子力機
構）大洗研究開発センター
の核燃料の研究施設であ
る燃料研究棟（PFRF）
一〇八号室で作業員五人
が被ばくする事故が起き

ました。
点検のため五〇代の男
性職員がステンレス製貯
蔵容器（二六年間点検し
ていなかった！）のふた
を開けたところ、プルト
ニウムとウランを含む核

燃料物質が入るポリエチ
レン製容器を包んでいた
ビニール製バッグが破裂
しました。

一〇八号室の室内は広
く汚染されました。室外
への汚染拡散を避けるた
め、出入り
口の外側に
除染や汚染
検査ができ
るスペース
を設ける必
要があった
ため、五人
はそのまま
三時間もそ

こにとどまらざるをえま
せんでした。

人体汚染を
防護する設備もなく

矢ヶ崎克馬琉球大学名
誉教授はこう言っていま
す。

「プルトニウムはアル
ファ崩壊する。アルファ
線はヘリウムガスとなる。
プルトニウムを包含した
アクチニウム崩壊系列で
は不活性ガスのラドンが
生成することは良く知ら
れている。ラドンが生成



黒い点は室内に飛び散ったプルトニウムを
含む核燃料物質とみられる
（写真：原子力機構大洗研究開発センター）



ビニールバッグが破裂して放射性物質が
飛散した金属製貯蔵容器（中央の容器）
（写真：原子力機構大洗研究開発センター）

すると酸化物として存在

である。」

した酸素がラドンと共に

「また人体などの除染・

発生する。二六年間とい

人体汚染を防護する設備

う貯蔵時間は確率として

を欠いていたところで作

十分その可能性を考慮し

業させたこともまさに体

なければならぬ。また

制としての人命軽視の極

常に崩壊しているのだけ

みであることとまさに

ら熱が生じ、蒸気圧も考

『脅威』である。」

慮の対象となる。その他

シャワーが故障で

封入容器壁との反応など

ホースで除染！

も生じ得る。ガス圧が増

しかも後に分かったこ

すのは当然予期して懸か

とですが、燃料研究棟の

らねばならない。」

水道は事故前から圧力を

「当然このような核燃

調整する弁が故障してお

料を取り扱う機関にはそ

り、シャワーの水がほと

れなりの施設設備が必要

んど出ず、事故後、別の

である。要は放射能であ

建物からホースをつない

る核燃料と人体を隔絶す

でシャワー室まで引き込

る施設が必要である。人

んで除染に使ったという

と放射性物質の間を遮断

四八個あるそうです。」

のです。なんというずさ

んさでしょうか。

五人の尿からはプルト

ニウムが発見されており、

内部被ばくしたことはま

ちがいありません。

同センター「燃料研究

棟」内には同様の貯蔵容

器が計八〇個あり、二月

から保管状態の点検を始

め、事故までに三十一個

の点検を終えていました。

それまでとは違う種類の

核燃料物質が入る容器の

点検を始めようとしたと

ころ、一個目で事故が起

きました。同じ種類の物

はまだ二〇個残されてお

り、未点検容器は全体で

四八個あるそうです。」

高浜原発のクレーン事

故といい、核にかかわる

仕事をしている人々、電

力会社、原子力機構の間

には大変危険なものを扱っ

ているという緊張感が欠

如しているのではないで

しょうか？事故が起きる

前に原発を止めましょう。

アート・アド分会

N